

2022年1月9日
宮崎教会主日礼拝（市内講壇交換）
牧師 乾元美（宮崎中部教会）

詩編 139：1～6

マタイによる福音書 6：8b～10

「御心」

本日は、市内の三つの教会で、このように講壇交換を行なうことができ、心から神さまに感謝いたします。

今朝は、こちら（宮崎教会）の竹前先生は宮崎清水町教会に。宮崎清水町教会の山口先生は、わたしが仕えている宮崎中部教会に。そして、わたしは宮崎中部教会から参りました、乾と申します。同じ宮崎市内の、しかもこれだけ近いところで、共にお一人の主を見上げて、共に祈り合って歩むことができる教会があること。そして、こうして、顔と顔とを合わせて、交わりを持つことができること。これは、とても大きな励ましであり、喜びです。

コロナウイルスの影響がどうなるかと心配でしたが、今日は何とかギリギリ？講壇交換が出来る状況が守られました。感謝です。

しかしそれこそ、ここ二年間は、コロナウイルスの影響で、教会の歩みを中々計画通りに進めることが出来ませんでした。それぞれの教会で、御言葉に聞きながら、祈りながら、何が神さまの「御心」に適った歩みか。何が神さまに喜ばれる方法か。それを必死に求めながら、歩んで来られたと思います。

しかしまだ、これからもどうなっていくか、わたしたちには、まったく分かりません。

それに新年度から、こちらの教会では、大きな変化の時を迎えられます。また、ここにおられるお一人お一人にあっても、新しいこと、違うことが始まる、環境が変化する、という方がおられるかも知れません。

わたしたちの日々や人生には、思いもよらないことが起こることがあります。変化が訪れること。新しいことが始まること。良くも悪くも、自分の計画とは違うことが起こること。色々なことが起こります。

そんな時に、教会ではよく「神の御心」という言葉を聞くように思います。

そしてまた、状況が難しいほど、大変なほど、神さまの御心って何だろう。神さまの御心なら、どうしてこんなに大変なこと、苦しいことが起こるのだろう。神さまはわたしに何をなさりたいんだろう。そう考え込んでしまうことはないでしょうか。

<御心とは？>

「御心が行われますように」。これは、イエスさまが教えて下さった、主の祈りの言葉です。わたしたちに、祈りなさい、と教えられた祈りです。

「御心」。それは、神さまの思い、神さまのご意志のことです。神さまの目的、なさろうとすること、と言っても良いでしょう。神さまの思いが、なりますように。神さまのご計画が、実現しますように。そのような祈りです。

でも、わたしたちは、素直にそう祈れないこともあるのではないのでしょうか。

それこそ、思いもよらない困難や、苦しみ、悲しみの只中にある時。心身共に弱っている時。どうしようもない不安や、恐れを感じる時。「どうしてこんなことが、神さまの御心なんのでしょうか。こんな御心には、従いたくありません。」「こんなことが神さまのご計画ならば、受け入れたくありません。」厳しい現実には、そう訴えたくなることもあるのです。祈ろうとしても、口ごもってしまうことが、あるのです。

また一方で、わたしたちは「神の御心」という言葉を、自分にも人にも、有無を言わせない、強く便利な言葉として、用いてしまうことがあるかも知れません。

例えば、受け入れがたい出来事が起こったり、何か思い通りにならなかった時に、「こうなることが神の御心だったんだ」と言って、無理に納得しようとしたり。「御心だから」ということを、「仕方のないこと」のように、諦めをつける理由にしてしまうことがあります。

昔、教会の青年が、人生の大事な場面で上手くいかず、とても悩んでいる時に、他の誰かから「それが神の御心だったんだ」と言われて、「何でもかんでも御心って言うな！」とキレてしまって、憤慨していたことを思い出します。

クリスチャンにとって、「神の御心」という言葉は、水戸黄門の印籠のようになってしまうことがあります。それを出したら、「神の御心」と言ってしまえば、何も言われなし、何も言えなくなってしまうのです。

でも、「神の御心」は、わたしたちを辛い目に遭わせたり、わざわざ苦しめたりするものではありませんし、無理に黙らせ、屈服させるようなものでも、決してありません。

<御心を知るには>

では、「神の御心」とは、一体何なのでしょう。神さまのご意志、なそうとしておられることは、一体何なのでしょう。

これは、自分の頭や心の中で色々考えても、世界中を分析して調べても、わたしたちは神さまの御心に辿り着くことは出来ません。今日の読まれた詩編 139:6 にあったように、「その驚くべき知識はわたしを超え／あまりにも高くて到達できない」からです。

だからこそ、「神の御心」は、神さまご自身によって、わたしたちに示されるものです。わたしたちは、ただそれを、聖書の御言葉から。神の御子、イエスさまからのみ、知ることが出来ます。

イエスさまは、神の御子でありながら、まことの人となり、天から低く降られて、わたしたちのところに来られました。そして、わたしたちの罪を贖うために、すべての罪を身代わ

りになって背負い、ご自分が十字架に架られました。これが、イエスさまが示して下さった神さまの御心。神さまの思いです。神さまの善いご計画です。

つまり、神さまの意志とは、御心とは、神さまが、わたしたちと共にいて下さる、ということ。わたしたちを罪から救い、命を与え、神さまの愛の中に生きる者とする、ということ。これが、神さまが望んでおられることであり、神さまが完成させて下さる、善いご計画なのです。

<すべてを知っておられる>

ですから、神さまの御心、ご計画が実現する、というのは、わたしたちの思い通りになることや、わたしたちの希望が叶う、ということではありません。

わたしたちは、色々なことを望み、色々なものを求めます。健康。安定した生活。恵まれた人間関係。失敗しないこと。波風なく、穏やかに生きること。どれも大切です。そして、わたしたちはもちろん、何でも神さまに打ち明け、何でも神さまに求めて良いのです。

しかし、わたしたちは、自分が本当に求めるべきことを、分かっていないことがあります。そして神さまは、わたし以上に、わたしのことも、わたしに必要なものも、ご存じのお方なのです。

詩編 139 編にはこうありました。「主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。座るのも立つのも知り／遠くからわたしの計らいを悟っておられる。歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。」

わたしたちをお造りになった神さまは、わたしたち、一人一人のことを究めておられます。わたしのことを、わたし以上にご存じです。座るのも立つのも知り、遠くからわたしの計らい、わたしの思いを、見つめておられます。歩くのも、伏すのも、見つめておられます。天地を造られた全能の神さまが、このわたしという、一人の人間の道に、ことごとく通じておられる。そして、わたしの舌が、まだひと言も語らぬさきに、神さまは、すべてを知ってくださっている、というのです。わたしたちの言葉にさえならない声も、思いも、呻きも、痛みも、神さまはすべてを知っておられます。

イエスさまが、十字架の苦しみの極限で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれた。それは、わたしたちが、神さまに見捨てられた、としか言えないような、絶望と苦しみさえも、ご存じでいて下さり、その、神さまから最も遠く離れていると思われるようなところでさえ、共にいて下さる、ということなのです。

詩編の詩人は語っています。「主よ、あなたはすべてを知っておられる。前からも後ろからもわたしを囲み、御手をわたしの上に置いてくださる。」

神さまが、わたしのすべてをご存じでいて下さるのは、前からも後ろからも、恵みでわたしを取り囲み、わたしを罪から救い、わたしの上に御手を置いて下さり、わたしを神さまの

御許へと、導くためなのです。神さまの恵みの中で、わたしを歩ませるためなのです。

<御心に生きる恵み>

そのように、わたしたちが、神さまの恵みに近付くことが、神さまの愛に生きることが、神さまの御心であるならば。わたしたちは「御心が行われますように」との祈りを、心から祈ることが出来るのではないのでしょうか。

苦しみの時こそ。悲しみの時こそ。不安の時こそ。悩みの時こそ。その只中で、共にいて下さろうとする、神の御心。恵みを与えようとして下さっている、神の御心。わたしたちが、神さまにますます近付くことを望んで下さる、神の御心です。

主の祈りの前に、イエスさまはこの祈りを祈る大前提を教えてくださいました。

「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。」

神さまは、わたしたち以上に、わたしたちの必要をご存じであり、わたしたちの願う前から、わたしたちが願うものよりも、もっと善いものを、わたしたちが思うよりも、もっと豊かなものを、与えようとして下さるお方です。

この神さまの恵みを受け取って歩むことこそ、神さまの御心なのです。

ですから、わたしたちは不安でも、心配でも、それでも祈って、安心して、御心に従って進んで行けばよいのです。わたしたちの道は、前からも後ろからも、上からも下からも、神さまに取り囲まれています。神さまの御手は、いつもわたしたちの上に置かれています。御心を実現して下さった、十字架と復活のイエスさまが、いつも共にいて下さり、この方に、わたしたちの人生のすべてが支えられています。

「御心が行われますように。」この神さまの恵みのご計画の中を、これからも、共に歩んでまいりましょう。

【お祈り】

天の父なる神さま あなたの御心が行われますように。わたしたちの上に、神さまの御心こそが、行なわれますように。わたしたちの罪に捕らわれた思いや、不安や、恐れを、拭い去って下さい。あなたの恵みで取り囲んで下さい。わたしたちに起こるすべてのこと、わたしたちのすべての歩みが、あなたへとますます近づくためのものでありますように。

竹前牧師、そして宮崎教会の歩みを、どうか豊かに祝福し、御心に適ったものとして下さい。市内三教会の交わりも、さらに豊かに祝されますように。

わたしたちの主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン